

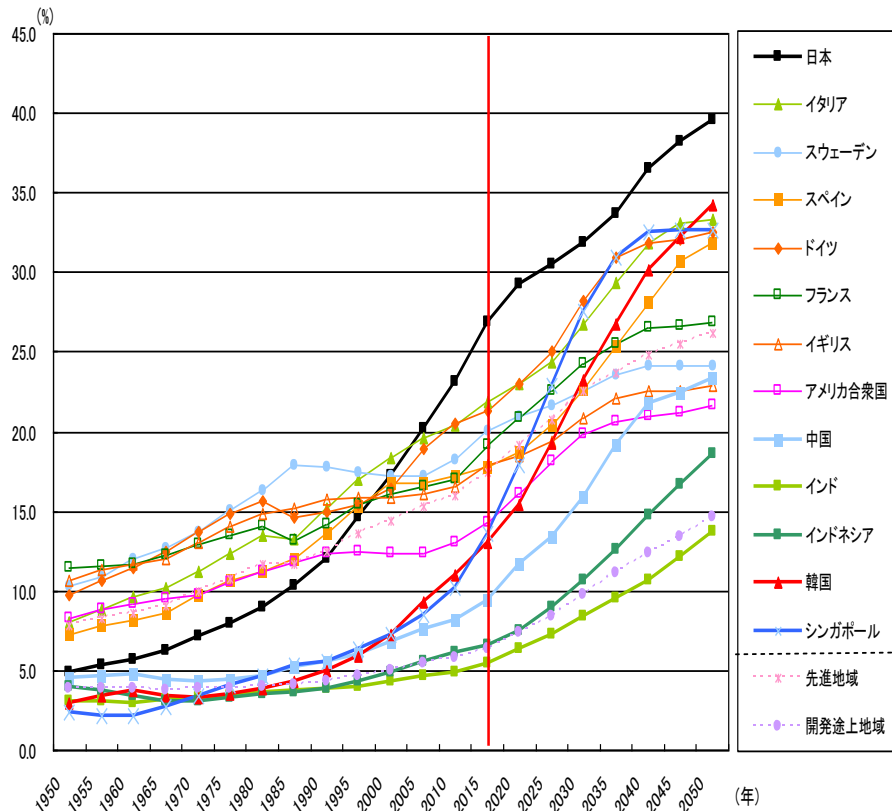
高齢社会共創センターの概要

～日本そして世界をリードする高齢化課題解決拠点へ～

2017年7月5日

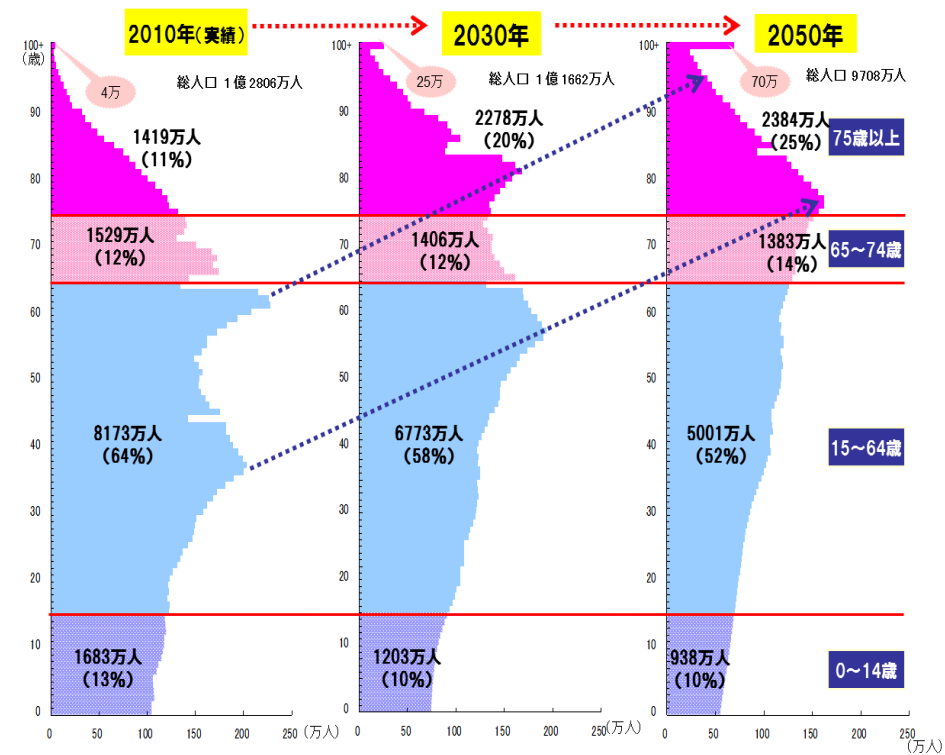
日本は高齢化最先進国（＝高齢化「課題」先進国）・フロントランナー！ 高齢化「課題解決」先進国として、世界にその姿を示していく必要がある

＜日本及び世界の高齢化率の推移と推計＞



資料：UN, World Population Prospects: The 2010 Revision ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

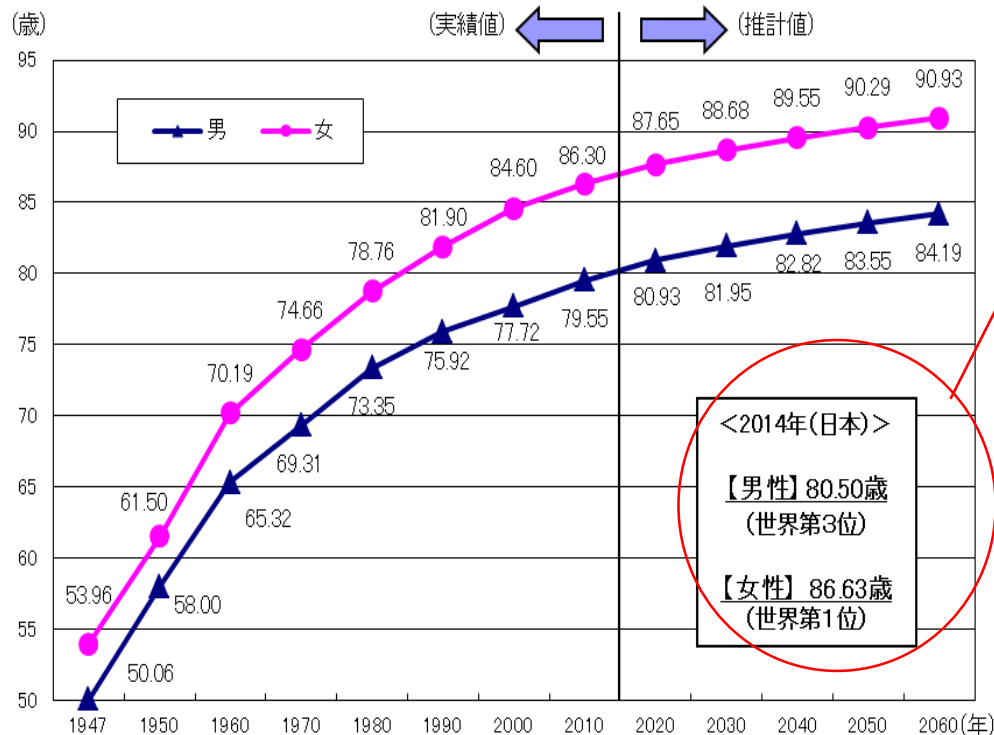
＜日本の人口ピラミッド（2010－2030－2050）＞



資料：総務省統計局「国勢調査（2010年）」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

「寿命革命」・・・“人生100年時代！” 長寿を“より良く”最期まで生きていけるか、個人が抱える課題は少なくない

＜日本人の平均寿命の推移と推計＞



平均余命 (実際) はもっと長い！

(男性60歳) ⇒ 半数が84歳以上、20%以上が91歳以上生きる！

(女性60歳) ⇒ 半数が90歳以上、20%以上が96歳以上生きる！

※厚生労働省「平成25年簡易生命表」より

大衆長寿時代！

＜生存率曲線の変化＞

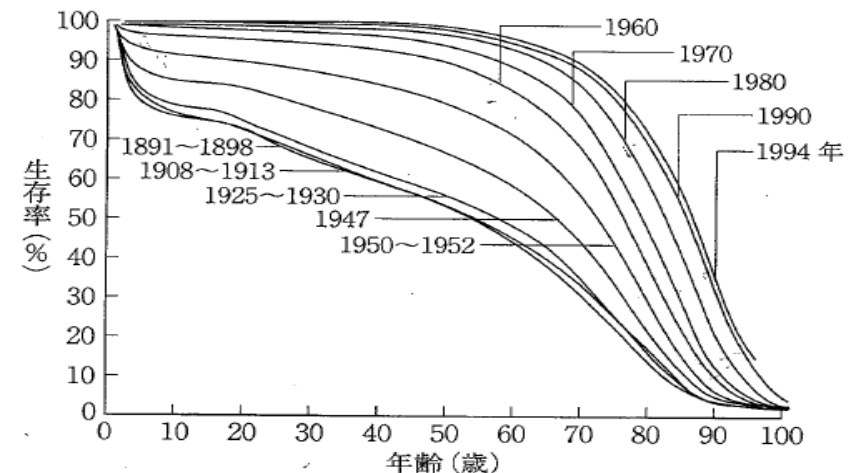


図 3.7 日本人女性の生存率の推移

(高柳涼一「予防医学」『日本内科学会雑誌』93(12), 2004年から)
(祖父江逸郎『長寿を科学する』岩波新書 新赤版1209, 2009)

資料：1947年及び1960年から2010年までは厚生労働省「完全生命表」、1950年は厚生労働省「簡易生命表」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

■ JST/RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」のプロジェクト（2010～15年度）

	分野	研究プロジェクト名	モデル地域
1	在宅医療	在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発	栃木県栃木市・茨城県結城市
2	健康（評価尺度開発）	新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発	東京都板橋区
3	ICT・生活支援	ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり	岩手県盛岡市・滝沢村・宮古市
4	高齢者就労	セカンドライフの就労モデル開発研究	千葉県柏市
5	社会参加（機器導入）	社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり	富山県富山市
6	災害・コミュニティ形成	「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン	岩手県大槌町
7	虚弱化予防	高齢者の虚弱化を予防し健康寿命を延伸する社会システムの開発	群馬県草津市・埼玉県鳩山市・兵庫県養父市
8	高齢者就労（機器導入）	高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発	奈良県下市町栃原地区
9	社会参加（機器開発）	高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発	茨城県つくば市
10	医療・介護	高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成	富山県砺波市
11	医療・認知症（評価尺度開発）	認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発	京都府京丹後市・京都市上京区・左京区
12	住環境・生涯学習・健康・ICT	健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造	高知県梶原町
13	災害・コミュニティ形成	広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成	福島県浪江町・二本松市・福島市
14	認知症・人材育成	認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証	愛知県大府市
15	コミュニティデザイン	2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術	福岡県福岡市東区・城南区

■ JST／S－イノベ「高齢社会を豊かにする科学・技術・システムの創成」のプロジェクト（2010年度～継続中）

	研究プロジェクト名	開発・研究リーダー所属機関
1	高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発	国立障害者リハビリテーションセンター研究所・日本電気(株)
2	高齢者の自立を支援し安全安心社会を実現する自律運転知能システム	神奈川工科大学・トヨタ自動車(株)
3	高齢者の経験・知識・技能を社会の推進力とするためのICT基盤「高齢者クラウド」の研究開発	東京大学・日本IBM(株)
4	高齢社会での社会参加支援のための軽労化技術の研究開発と評価システムの構築	北海道大学・三菱電機エンジニアリング(株)

1. 「高齢社会共創センター」の全体イメージ

一般社団法人「高齢社会共創センター」設立構想



2. 高齢社会共創センターの概要①

1. 目的

目指す理想の超高齢未来の実現に向けて、JST内で培ってきた高齢化課題解決の「知」を社会に循環（還元）すること、また高齢化課題解決に取り組む関係機関と連携をはかり、当該機関の「知」の循環（還元）を促すこと。そのことを通じ、活力と魅力ある高齢社会を築くこと。

・・・高齢社会共創センターとは、「高齢化課題解決を総合的に解決するコミュニティづくり、企業のイノベーションを推進・支援する拠点（人・地域・情報・活動・組織を育み、“つなぐ”拠点）」

2. 設置場所

東京大学高齢社会総合研究機構内

3. 創設年月

2017年4月

4. センター長

秋山弘子（東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授）

《目指す理想の超高齢未来の姿》

「活力と魅力ある高齢社会」



いきいきと活躍できる場がある社会

誰もがいつまでも自分らしくいられる地域

少しでも長く健康でいられる社会

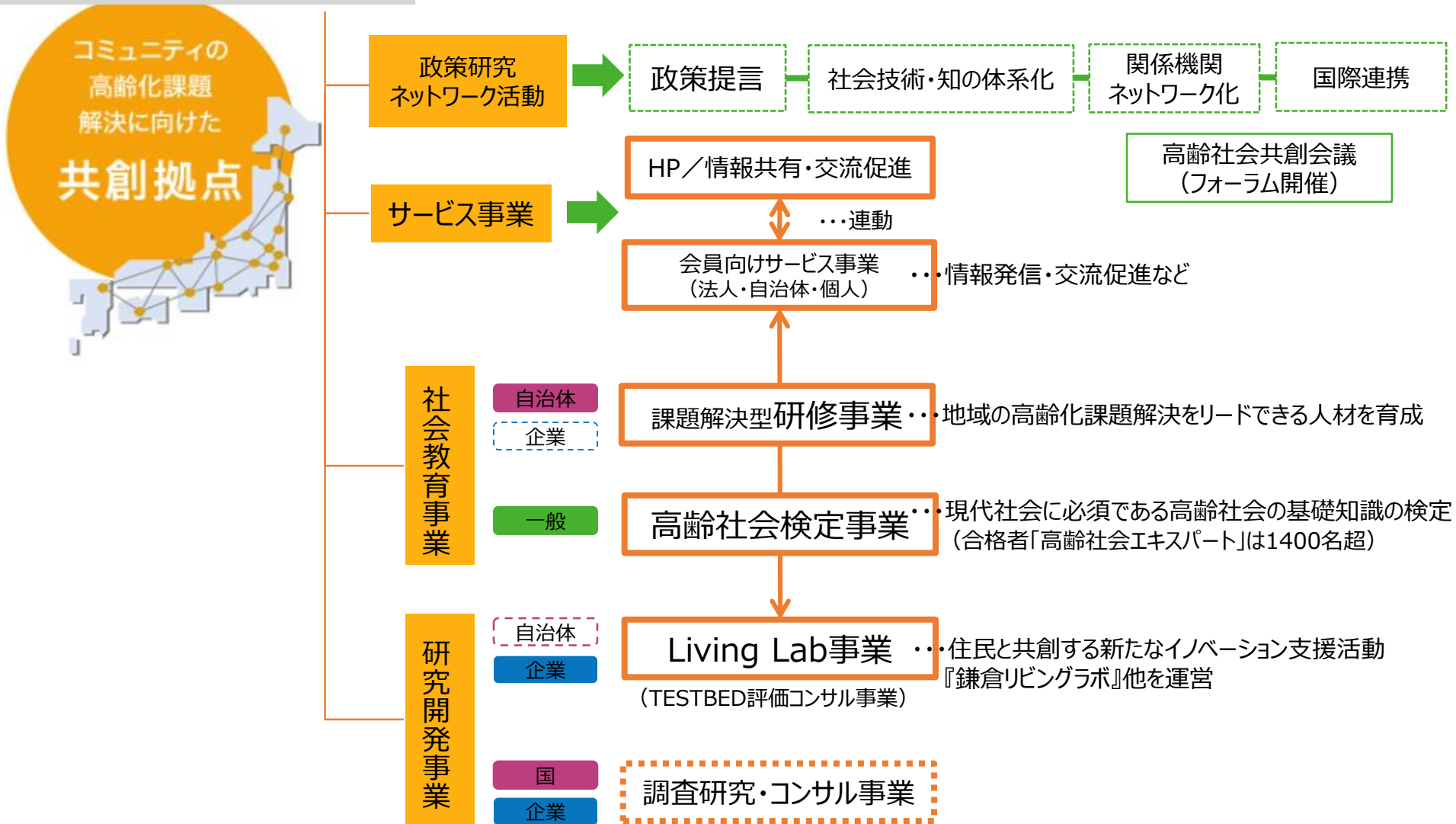
虚弱になっても
住み慣れた地域で
安心して暮らせる社会



2. 高齢社会共創センターの概要②

高齢社会共創センター

・・・超高齢・長寿社会の課題解決を推進するThink tank／Do tank



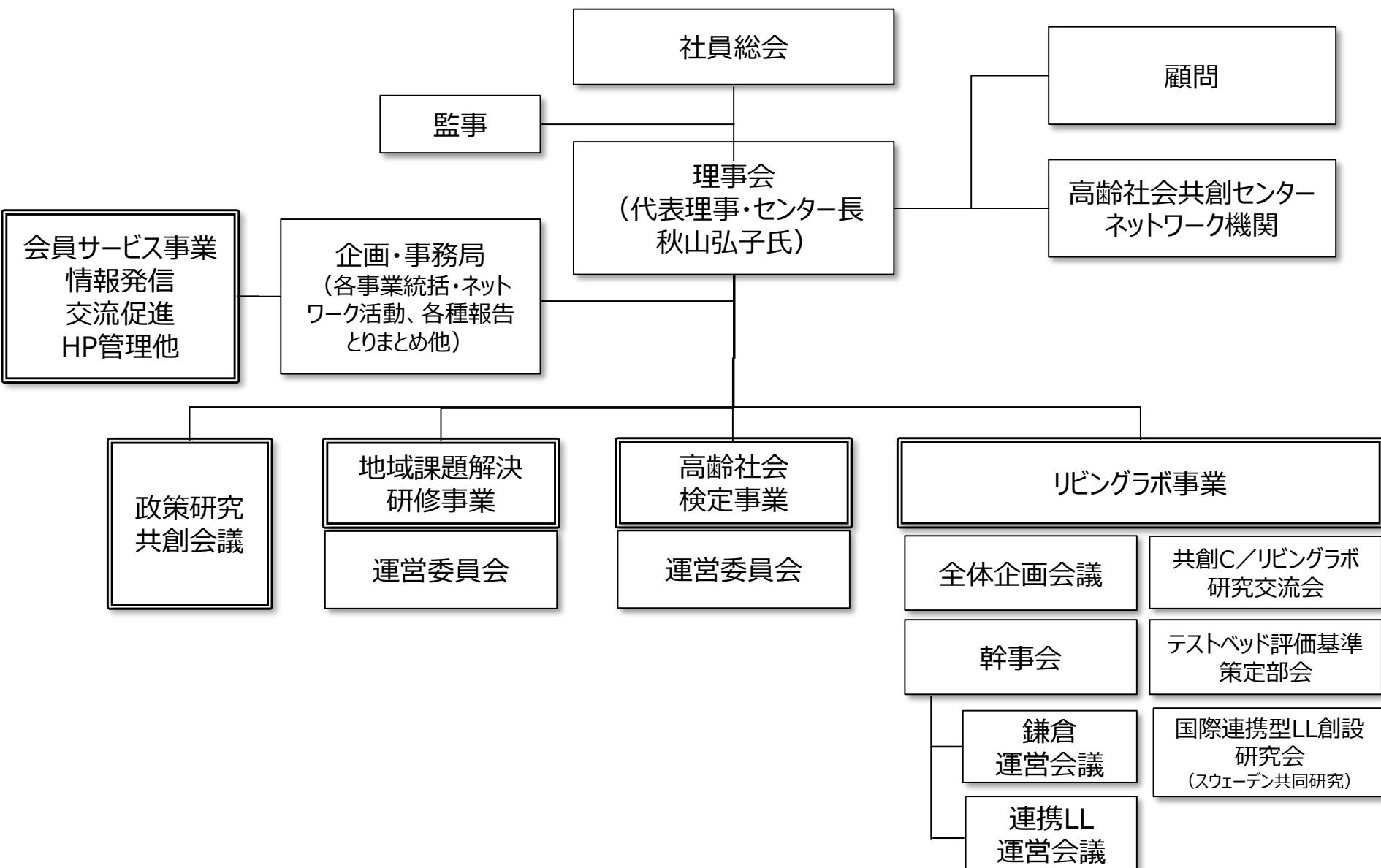
3. センターの役員・執行体制 (高齢社会検定協会からの改組・移行)



高齢社会共創センター
Co-Creation Center for Active Aging

～2016			2017～			
						※下記はいずれも候補（承認前）
高齢社会検定協会			高齢社会共創センター			高齢社会共創センター ネットワーク機関
			(所属機関の役職)			
会長		小宮山 宏	顧問	小宮山 宏	東京大学 総長顧問（元総長）、三菱総合研究所 理事長	科学技術振興機構（JST）
顧問		石原 信雄		石原 信雄	地方自治研究機構 会長、元内閣官房副長官	内閣府「環境未来都市」
		大内 尉義		大内 尉義	虎ノ門病院 院長	国立長寿医療研究センター
		大島 伸一		大島 伸一	国立長寿医療研究センター 名誉総長	東京都健康長寿医療センター 研究所
		筒井 義信		筒井 義信	日本生命保険相互会社 代表取締役社長	桜美林大学／老年学総合研究所
		樋口 恵子		樋口 恵子	NPO 高齢社会をよくなる女性の会 代表	東北大学スマートエイジングセンター
		日野原 重明	理事	秋山 弘子（センター長）	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授	大阪大学
理事	代表理事	秋山 弘子		辻 哲夫	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授	神戸大学アクティブエイジング研究センター
	執行理事	大方 潤一郎		飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 教授	高齢社会NGO連携協議会
		鎌田 実		秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科 教授	高齢社会をよくなる女性の会
		辻 哲夫		大月 敏雄	東京大学大学院工学系研究科 教授	国際長寿センター（ILC）
		岡本 憲之		山本 則子	東京大学大学院医学系研究科 教授	ダイヤ高齢社会財団
		堀 雅文		鈴木 隆雄	桜美林大学 老年学総合研究所 所長	プラチナ構想ネットワーク
		秋下 雅弘		袖井 孝子	お茶の水女子大学 名誉教授	その他（民間シンクタンク他）
		飯島 勝矢		岡本 憲之	日本シンクタンクアカデミー 理事長	【後援団体】
		伊福部 達		堀 雅文	一般財団法人 総合研究奨励会 理事	日本老年学会（7団体）
		大月 敏雄	監事	岩本 康志	東京大学大学院経済学研究科 教授	等
		清水 哲郎		牧野 篤	東京大学大学院教育学研究科 教授	
		樋口 範雄		※順不同、敬称略	(計18名)	
		牧野 篤				
		山本 則子				
監事		岩本 康志				
		関根 千佳				

4. 高齢社会共創センターの組織図



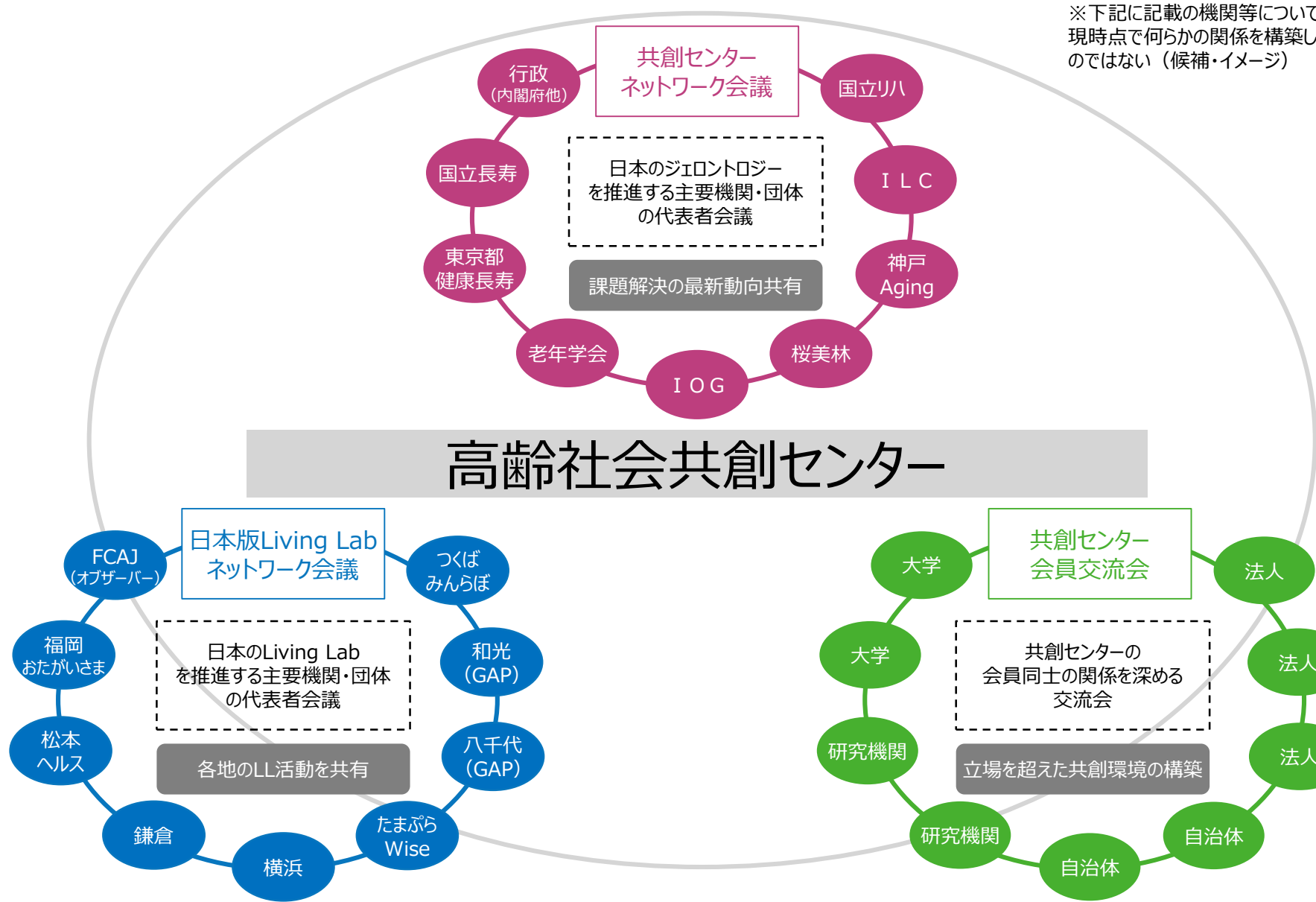
高齢社会共創センターの特徴①

「人・情報・組織」を“つなぐ”

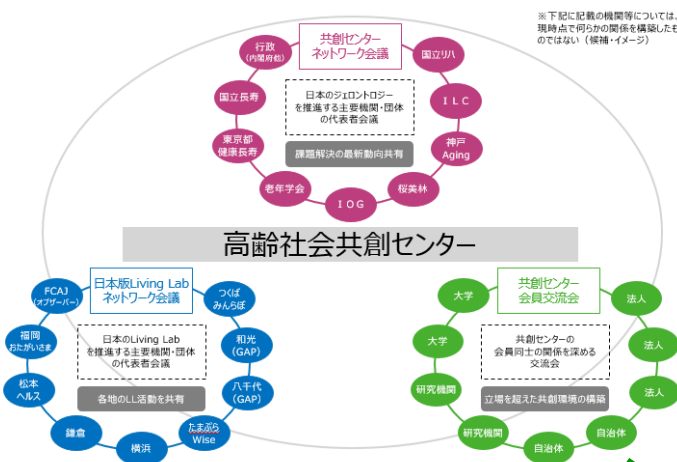


1. 高齢社会共創センターを目指す3つのネットワーク活動イメージ

※下記に記載の機関等については、現時点で何らかの関係を構築したものではない（候補・イメージ）



2. “つなぐ”ための活動（2017年度計画）



《共創C／リビングラボ研究交流会》

- ① **リビングラボ**に関する情報提供
ー 活動実践者からの報告等
- ② **地域課題解決**に関する情報提供
ー 有効なまちづくり方策の事例報告等
- ③ **シルバー・イノベーション**に関する情報提供
ー 企業の取組事例等

■ 5月25日（木）15-17時 【第1回LL研究交流会】

■ 7月5日（水）15-17時 【第2回LL研究交流会】

■ 9月15日（金）15-17時 【第3回LL研究交流会】

■ 11月16日（木）13-17時

『**高齢社会共創センター創設記念シンポジウム**
／第1回 共創センターネットワーク会議』

★ジェロントロジーを推進する主要研究機関の代表者を招聘。
高齢化課題解決・イノベーションに向けた最新の情報を共有しつつ、
関係者間での交流を深める

■ 1月16日（火）15-17時 【第4回LL研究交流会】

■ 3月15日（木）13-17時

『**第1回 日本版リビングラボ・ネットワーク会議**』

★国内外で展開するリビングラボ実践者等を招聘。
最新の活動状況を共有、理想の日本版リビングラボの構築に向けて検討等

3. WEBを介して“つなぐ”（高齢社会共創センターHP）

<http://www.cc-aa.or.jp/>



高齡社会共創センター
Co-Creation Center for Active Aging



[TOP](#) [共創センターとは](#) [特集](#) [事業紹介](#) [共創コミュニティ](#) [公産学民の視点](#) [交流](#) [お問い合わせ](#)



高齡社会共創センター
人・情報・組織をつなぎ活力ある長寿社会を共に創る

[トピックス・最新ニュース](#) 2017/5/17 特集：人生100年時代の新しい社会を共創する拠点「高齡社会共創センター」

共創情報ポータル

 見る・知る 全国のさまざまな活動を見ましょう。 	 調べる 関心に合わせて、キーワードから事例に迫ります。 	 つながる 交流を図りながら、人のネットワークづくりを進めます。 	 役立つ コミュニティづくりに役立つ情報をまとめていきます。 
--	--	--	--

共創センター事業



➡ 高齢社会検定



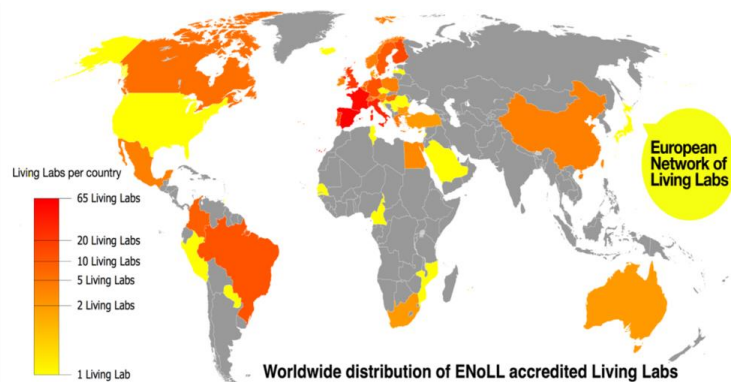
➡ リビングラボ

高齢社会共創センターの特徴②

高齢社会（未来社会）を“共創する”



約400のLLが世界で展開



新しい地域活動・イノベーション活動

生活者が主役！

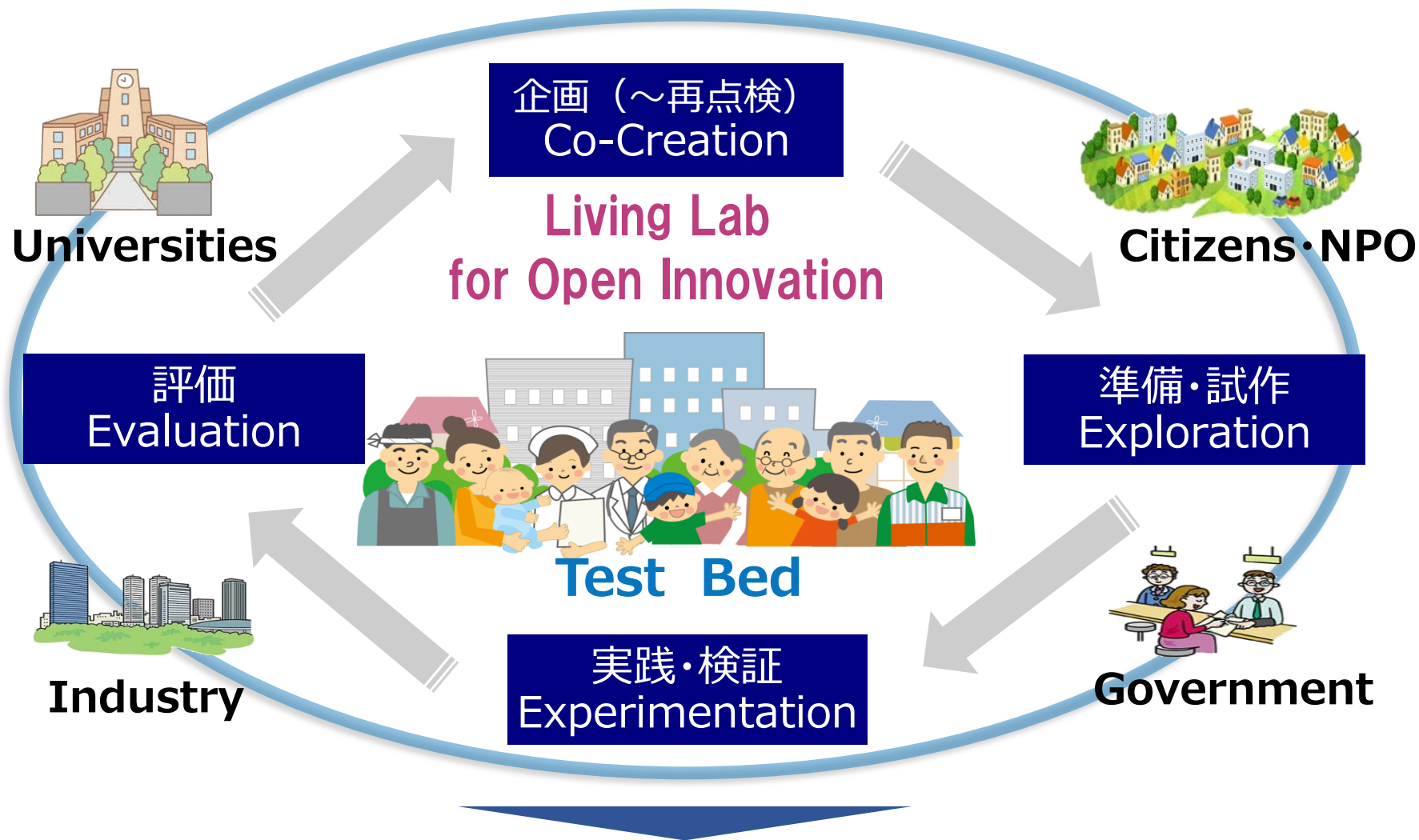
住民・企業・大学・行政が参加
サービス・ものづくりを共創
地域の課題解決を協働・共創



♥ リビング・ラボでは何を行うの？

これら全ての取組を行政、企業、大学等と共に住民主体で行います。





生活者（当事者）のニーズに適う
より質の高い成果・解決策を産出

<補足>リビングラボの共創サイクル（基本形）

①Co-Creation（企画共創&改善）【Planning & Act】

i) ニーズ・インサイト把握【ALLメンバー（+専門家）】

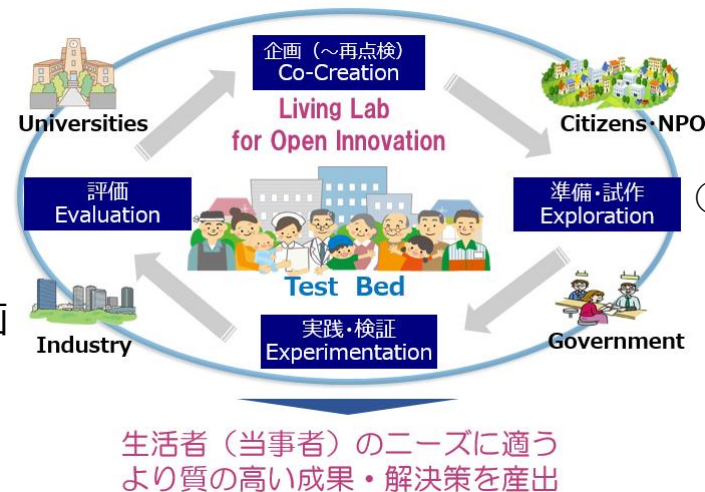
フォーカス・グループ・インタビュー、インデプス・インタビュー、ワーク・ショップ 他

ii) 発言・テキスト分析→構造化・可視化（集合知・複雑知の解析）【大学・専門家】

目的工学・連環データ分析、パターンランゲージ分析、SPSSテキスト分析

マーケティング分析手法（ACAT、コンテクスチュアル・ポジショニング、インサイトチェッカー、感覚構造分析他）

iii) 仮説構築・検討【ALLメンバー】



②Exploration（準備・試行）

i) プロトタイプ作成

【企業・自治体（・大学）】

ii) 検証・準備・調整

【企業・自治体（・大学・専門家）】

③Experimentation（実践・検証）【Do】

i) 試行【ALLメンバー（+専門家）】

ユーザビリティテスト、参与観察、試用・試行・試乗など

ii) 集計・分析【大学（・企業他）】

リビングラボの 活動パターン

■ TOPダウン型（テーマありき）

■ ボトムアップ型（テーマ・課題の発見から）

全体コーディネート
知見提供と分析評価
アクション・リサーチ、エビデンス

大学

共創活動の調整・後方支援
地域活性化・地域の質向上

自治体

共創
協働

企業

生活者
(当事者)

商品サービス開発
新たな開発視点・CSV※
※Creating Shared Value : 共通価値の創造

意見・評価・アイデア
社会貢献・新たな収入源

まちの未来を創る

地域内外の人たちが暮らしを彩るアイデアの種を
持ち寄り共に育てる、新しい地域・社会活動
『リビングラボ』を始めます♪

鎌倉 リビングラボ活動

2017年1月
キックオフ!



1. 鎌倉リビングラボの推進体制とフィールド

高齢社会共創センター

(東京大学IOGとの共同研究)
+ プロジェクトごとに専門家チームを形成

共創

鎌倉市役所



テストベッド
「いずみサロン」

高齢社会共創センター会員企業
(SMBCグループ／日本総研による協力)

協働

今泉台地域^他
(町内会 & NPO※協力)

※NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台 (TSKI)

大船駅



北鎌倉駅

鎌倉駅

<今泉台地域基礎データ (2016.5)>

- 人口 : 5156人
- 世帯数 : 2125世帯
- 高齢化率 : 42.7%

まちの未来を創る
**鎌倉リビング・ラボ
オープニングイベント**

13:30 <開 会>
主催者挨拶
田島幸子（今泉台町内会 会長）
秋山弘子（東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授）

13:40 ♥ リビング・ラボのご紹介
前田展弘（東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員）

14:10 ♡ 2 新商品開発プロジェクトの参加者募集 及び
鎌倉リビング・ラボの登録モニターの募集
①ヘルスケア商品 ②在宅勤務家具
③鎌倉リビング・ラボ登録モニター
《質問タイム》

14:40 🍌 3 お披露目会・展示会のご案内
①次世代モビリティ「TOYOTA iRoad」のご紹介
②トヨタパートナーロボット（HSR）のご紹介

15:00 <閉 会>

主催 東京大学高齢社会総合研究機構、今泉台町内会、NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台
鎌倉市役所《協力》



記者発表資料

発表日:2017年1月30日

日本とスウェーデンの共同研究による「鎌倉リビング・ラボ」の取組がスタート



このたび、今泉台町内会（NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台）、東京大学高齢社会総合研究機構、三井住友フィナンシャルグループ等、及び鎌倉市が連携し、日本で初めての本格的な取組となる「鎌倉リビング・ラボ」をスタートしましたので、お知らせします。

この取組は、主にヨーロッパ圏で広まってきたリビング・ラボが、アジア圏との連携を図るに当たり、長寿社会のまちづくりに取り組んできた鎌倉市今泉台がその窓口としての役割を果たそうとするものです。

（写真右から、NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台丸尾理事長、今泉台町内田島会長、鎌倉市松尾市長、東京大学秋山特任教授、三井住友銀行法人戦略部松本部長）

【ベルギー】製薬企業⇒iMinds／LicaLab

【No. 1】（開発中・アジア進出希望）「医薬品包装パッケージ」の検証

募集対象者	①一般住民 15名 ②薬剤師他 15名	共創内容	①ユーザビリティ・テスト ②グループ・インタビュー
-------	------------------------	------	------------------------------

THOMAS MORE

PACKAGING STUDY PROTOCOL

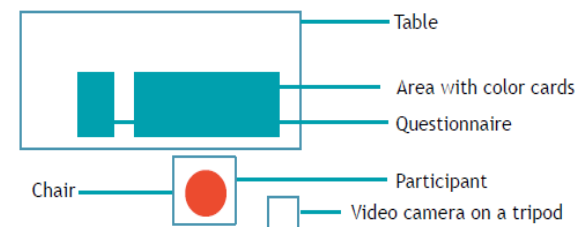
Expertise Unit
Psychology, Technology and Society

Tom Van Daele, PhD
Peter De Graef, PhD



PREPARATION - LOCATION

- Try to create a similar set-up like shown below
 - while the participant performs the second task.



※2017/3末時点

①開発中：パーソナルケア製品（女性用シャンプー等）のテスト

終了

②ゼロ発：新たなワークスタイルの開発（ニーズ調査～）

終了

⇒継続予定

③開発中：次世代モビリティのニーズ調査・試乗調査

④開発中：生活支援ロボットのユーザビリティテスト他

⑤開発中：専用タブレット・高齢者向けトータル生活サポートサービス調査

⑥開発中：高齢者のヘルスケア・予防に向けた方策の検討

等

【共創Cとしての目的】 2017-18年度（2年間）を目処に、次のA～Cの共創活動を実践し、具体成果を創出しながら、当該活動の機序（メカニズム）及び事業構造を確立すること
（＝日本版リビングラボ活動・事業のモデルの構築）

A ……【共創C主導】 ⇒ご関心をもたれた皆様と共創チームを形成したい

住民課題にもとづく…「長寿社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境の開発」

B ……【共創C主導】 ⇒ご関心をもたれた皆様と共創チームを形成したい

自治体課題にもとづく…「IoTを利活用した鎌倉観光の複線化とシニア活躍事業の開発」

C ……法人会員の皆様からの提案を受けて活動（提案を受けて共創Cがコーディネート）

企業課題にもとづく…「新たな長寿社会向け商品サービス開発（複数）」

4. リビングラボを利用するメリット（共創Cとしての整理）

※一般的な市場調査や企業が有するイノベーションセンターとの違いを意識して

① 川上（企画段階）から生活者・ユーザーの参画したオープン・イノベーションを実現

（B to Bのオープン・イノベーション⇒B to B to Cへ拡大）

これまで以上に生活者・ユーザー中心の商品サービス開発、まちづくりなどが期待できる。

② 業種の異なる複数の企業との共創を望む場合（自社単独では実現できないテーマに取組む場合）、大学（共創C）がコーディネートすることで、必要なメンバーとの共創が可能（＝Aパターン）

③ 自治体と企業の共創（公民連携事業）の形は様々あるが、自治体の事業として位置づけると、公平性等から硬直的かつ制限的な活動に止まることが多い（公募・入札）。リビングラボの事業として設計することで、地域の課題解決の取り組みを加速させることが可能。このことは自治体にとっても企業にとっても有益なことと考えられる（＝Bパターン）

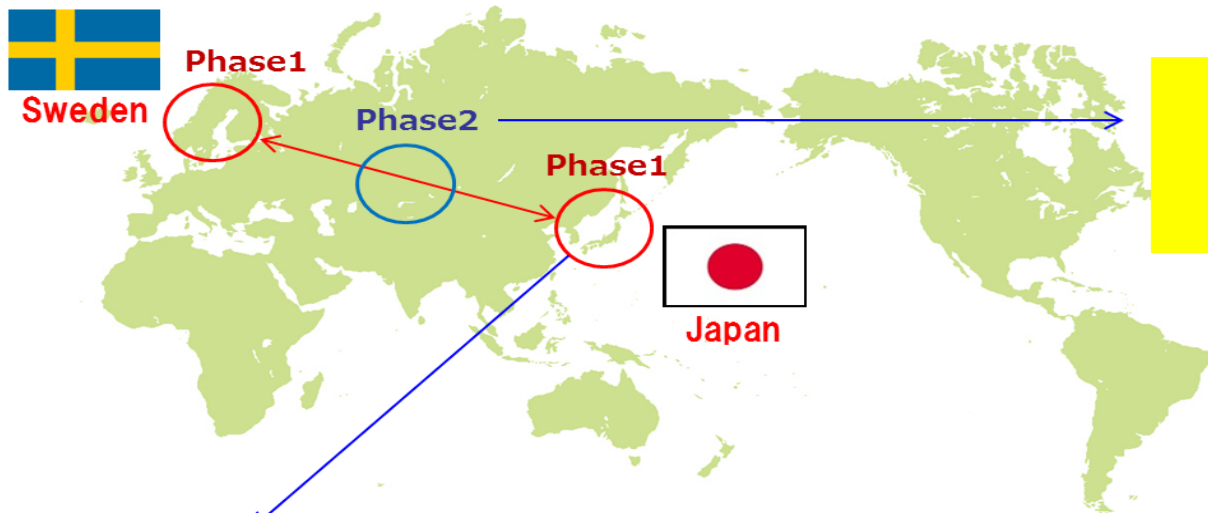
④ 1 回程度のニーズ等調査であれば、既存の市場調査等と違いは基本的でない。リビングラボは、当事者性が高いこと（必要な住民の参加が可能）、改善に向けた「反復」活動を行うことで、生活者（当事者）のニーズを満たす質の高い成果づくりが期待できる（＝Cパターン）。

⑤ 企業はこうした反復・継続的なテストができる場（テストベッド）がなくて困っている。生活の場で使用して徹底的にテストできる場は、企業にとっても有益と考えられる。

5. 活力ある高齢社会の実現に向けた「国際連携型リビングラボ」の創設！

JST 国際科学技術共同研究推進事業／日本－スウェーデン 国際産学連携 共同研究（2016年度公募）⇒採択
テーマ：「高齢者のための地域共同体の設計やサービスに関する革新的な対応策」

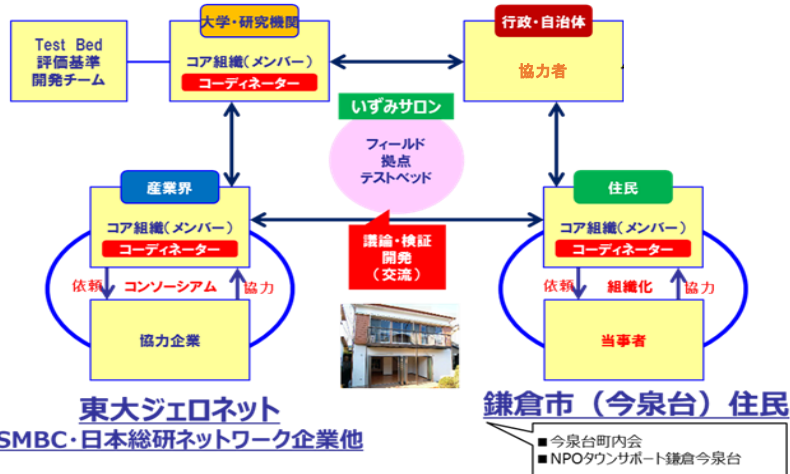
2017/1～
始動！



鎌倉リビング・ラボ



一般社団法人 高齢社会共創センター (東京大学高齢社会総合研究機構が支援)



※上記機関はネットワーク化の候補。現時点では特に何らかの関係を締結しているものではない。

「リビングラボ」といって言葉を知ったことがあったら、商品開発や街づくりなどの課題解決に、企業や自治体、大学と消費者や住民自身が一体になって取り組む研究所のことだ。企業と消費者が対等な関係で、互いに学びあう。暮らしの中心に人を置き、必要なものは、本気で役立つモノや仕組みは作れないとの認識が広がり、全国で活動が盛んになっている。

「リビングラボ」の「仕事」と「家」に似ているところがある。企業は「仕事」を、オフィスでやる。リビングラボは「家」でやる。イート・スペースと呼ばれるキッチンやリビング、ダイニングに、いすみサロン（神奈川県鎌倉市）に集まったのは男女18人。65〜75歳の男性、50〜64歳の男女、0〜12歳の子どもの家族が、リビングラボのメンバー。女性3人のグループに分かれて話し合った。参加者からは「子ども

の様子を見ながら他のお母さんたちと一緒に働ける場所がほしい」「家で仕事しながら小学生の勉強を見るのに便利に家族を、など意見が相次ぐ。イート・スペースに子育て中と言っても、子どもの年齢によってニーズが変わることがわかった」（「フクスタイル研究所」の代表者）。鎌倉市が推進の旗で、働く場所が市内だけでなく、在宅でも広がるとみる同社は、ニーズを探る。

この場を提供したのは、東京大学、同大と協力関係にある企業、鎌倉市今泉町の住民が今年1月に作った「鎌倉リビング

知っている？

リビングラボ

「リビングラボ」だ。イート・スペース以外に、企業が次世代の移動手段や生活支援ロボット、パーソナルケア製品などの研究を持ち込んでいる。



鎌倉市今泉町で開かれた座談会。子育て中の女性らにオフィス家具を手掛けるイート・スペースを開いた。

街づくり・商品開発 生活者と一緒に「研究」

ニーズ 的確に探る

機材社社長。鎌倉市今泉町の高齢化率は4割超。情報通信や官公庁の拠点となる「ワイズリビングラボ」を開いた。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を活用した住宅展示場やカフェも開業する予定。「市民に来てもらい、歩いて暮らせる生活圏への提案を開きた」（東京大学電機）。健康寿命延伸都市を目標とする長野県松本市は2014年に「松本ヘルス・ラボ」事業を開始。年費3000円で「健康パスポート」に加入した個人が、年々増加の血液検査や体力テスト、運動プログラムなどを提供する。ほかに、ヘル

ス・ラボの倫理委員会が健康増進に役立つと判断した企業の試みに市民が協力する事業も行っている。例えば、森永乳業の飲料を保育園に飲んでもらい、風邪の予防効果をみたほか、青森の睡眠改善に関するスマートフォンアプリの活用や効果の検証も行っている。

企業も、お金を払って健康増進に努める人たちが無償で引き受けてくれる、謝礼を払って比較ベータの信頼性が高い」（森永乳業の山内恒治・素材応用研究所機械素材開発部長）と評価する。松本市は、健康経営に熱心な中小・中堅企業の社員を健康パスポートクラブに勧誘するなどして、会員を現在の約1倍の2400人にしたい考え。（相川浩之）

リビングラボでの参加者の役割と仕組み



当事者意識 どう高める

リビングラボのコンセプトは1990年代前半に米国で誕生した。2000年ごろに北欧で広がり始め、欧州を中心に、全世界で380を超えるリビングラボが登録されている。と富士通経済研究所の西尾好司所長主任研究員。テーマは企業の製品、サービスの開発や検証のほか、行政サービスの検討、社会課題の解決など多岐にわたる。しかし「理学官民で一緒に推進的に活動しているものは欧州でも50カ所程度」（西尾所長主任研究員）。リビングラボをうまく進めるためには「何より住民の当事者意識が重要」と話す。

ただ、いきなり住民すべてに当事者意識を持たせるのは難し。住民を巻き込む地道な活動が鍵だ。鎌倉市では鎌倉リビング・ラボの前身となった「長寿社会のまちづくり研究プロジェクト」を進め、最終で市民を巻き込むNPO法人タウンサポート鎌倉が設立された。空き家対策や高齢者支援を行う同NPOが住民の参加意識を高めた。またフリーザ北相模地区でも「次世代構想に結びつくワークショップを定期的に開催し、住民の街づくり意欲を高めてきた」（沼田誠子青葉区美しが丘連合自治会会長）。松本ヘルス・ラボも様々な市民組織が健康増進という目的で企業や大学と一緒に取り組んできた経験が基になっている（ヘルス・ラボの運営委員佐藤のり子氏）。

日経新聞
2017.4.4
(夕刊)

高齢社会共創センターの特徴③

共創するために必要な“基礎知識を提供する”



★現代社会に不可欠な 3 大スキル⇒

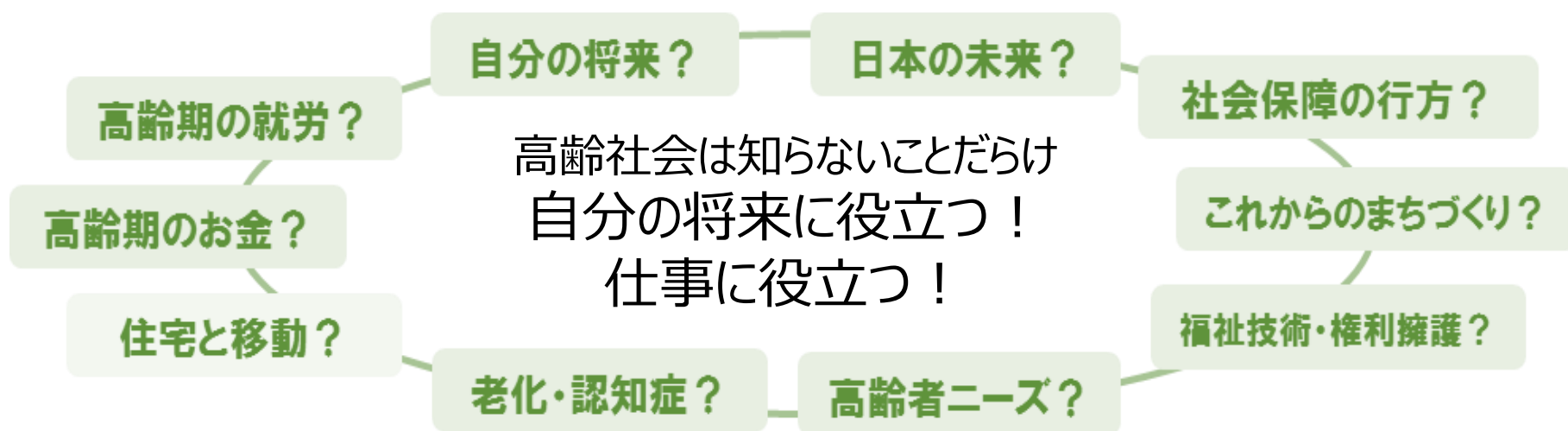
英語

ICT

高齢社会

- ◆日本は世界の先頭を歩む「高齢化最先進国」であるにもかかわらず、多くの人は**高齢社会の実態を知らない！**
⇒これではより適切な**政策、商品サービスが開発されにくい！**
- ◆やがて 3 人に 1 人が高齢者となる時代が訪れるにもかかわらず、多くの人は、**高齢者（高齢期の生活）の実態を知らない！**（偏見が多い）
⇒これではより適切な**高齢者への対応（接遇）がされにくい！**
- ◆人生100時代を生きているにもかかわらず、多くの人は理想の**長寿の生き方がわからない（描けない）！**
⇒これではより**安心で豊かな長寿を実現しにくい！**

個人の人生設計課題、社会の高齢化課題を解決し、
より豊かな未来を築くために必要な知識を提供！



テキスト

「東大がつくった高齢社会の教科書」

具体的には、次ページのテキスト（目次）を！

2017年3月「改訂版」発刊



<テキスト（書籍）>（@1800円+税、300頁）

- ◆編著：東京大学高齢社会総合研究機構
- ◆編集協力：ニッセイ基礎研究所
- ◆執筆者：東京大学高齢社会総合研究機構メンバー（教授）他
- ◆出版・販売：東京大学出版会

総論【共通】

- 第1章：超高齢未来の姿
- 第2章：超高齢未来の課題
- 第3章：超高齢未来の可能性 ～課題解決に向けた方向性

I. 人生100年時代のライフデザイン【個人編】 （個人のエイジング課題の解決に向けて）

- 第4章：長寿時代の理想の生き方・老い方
- 第5章：高齢者の活躍の仕方（就労・社会参加・生涯学習等）
- 第6章：高齢者の住まい
- 第7章：高齢者と移動
- 第8章：高齢者の暮らしとお金
- 第9章：高齢者の暮らしを支える社会資源
- 第10章：老化の理解とヘルスプロモーション
- 第11章：認知・行動障害への対応
- 第12章：最期の日々を自分らしく

II. 超高齢社会のデザイン【社会編】 （社会の高齢化課題の解決に向けて）

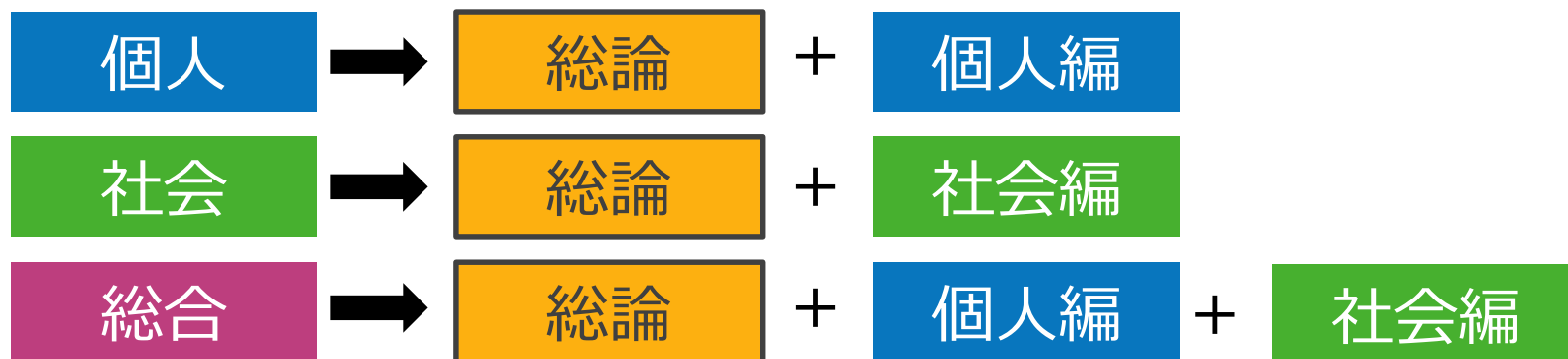
- 第13章：超高齢社会と社会保障
- 第14章：医療制度の現状と改革視点
- 第15章：介護・高齢者福祉の現状と改革視点
- 第16章：年金政策の現状と改革視点
- 第17章：住宅政策・まちづくり
- 第18章：交通・移動システム
- 第19章：ジェロンテクノロジー（福祉工学）
- 第20章：高齢者と法・自己決定と本人保護

3. 当検定事業の概要

- ✓ 一般社団法人 高齢社会共創センターが主催・運営
※2013～16年度（第1～4回）までは一般社団法人 高齢社会検定協会（2013年3月設立）が実施。
2017年度（第5回）より、高齢社会検定協会を改組した「高齢社会共創センター」が当該検定を実施。
- ✓ 試験は東京大学高齢社会総合研究機構が監修
- ✓ 年1回、東京（東京大学駒場キャンパス）、大阪、札幌会場にて実施
- ✓ 受験コースは、目的に応じて、3つのコースを設定（別途、特別総合コースあり）

（受験コース）

（受験科目）



◆受験料：【個人】5500円 【社会】5500円 【総合】8000円

- ✓ 合格者には、**高齢社会エキスパート**の認定資格（称号）を付与

①企業関係者

高齢者市場開拓・商品サービス開発の基礎知識として

②行政・自治体関係者

制度・施策立案場面における基礎知識として

③高齢者と接する専門職（医療・福祉他）

高齢者の状態理解と相談機能向上のための基礎知識として

④一般の学生・生活者（高齢者他）

人生100年時代の人生設計場面の基礎知識として

現代社会に不可欠な基礎知識（教養）が身に付くことはもちろんですが・・・

◆協会認定資格「高齢社会エキスパート」の合格証（称号）を付与

－「高齢社会エキスパート」であることは、ジェロントロジーの基礎知識を有している、つまり高齢社会・高齢者および長寿時代の人生設計に関する総合的な理解ができていることを証明

◆名刺に書ける、履歴書に書ける・・・「高齢社会エキスパート」は信頼の証

－高齢社会エキスパートは、東京大学高齢社会総合研究機構が編著したテキストにもとづく試験に合格した方であり、自信をもって名刺等に記載可。お客様等の信頼も高まる。
※社内の自己申告票等（保有資格を記入する書類）にも積極的に記載されることを推奨します

◆高齢社会エキスパートとして人的ネットワークが広がる

－高齢社会エキスパートを招集する交流会を継続的に実施。多様な職業の方、様々な年代の方との交流が広がります。

高齢社会共創センターは、上記に加えて、「高齢社会エキスパート」の社会的価値の向上及びメリットの拡大に向けて今後も取組んで参ります

仕事の面で

高齢社会に特に関心はなかったが、会社の勧めで勉強（受験）したら、これからの日本の未来の状況がよく理解できるようになって、仕事の視野が広がった

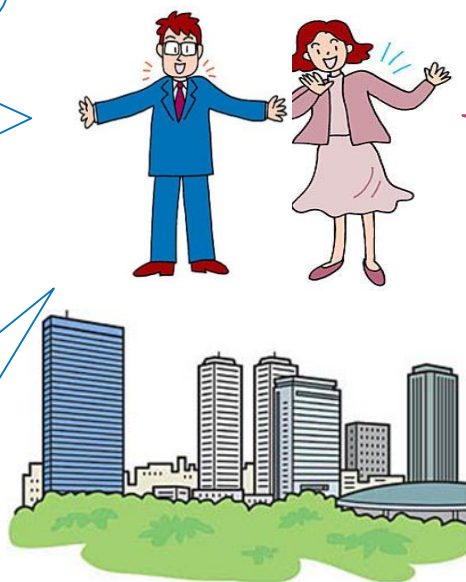
高齢化対応の新事業開発を担当することになり、テキストにあるデータや情報はとても参考になった。またこの試験に合格したことで、自信がついて説得力がアップした

普段、ご高齢のお客様と接する機会が多いのですが、この試験を勉強して、高齢者の気持ちや健康のことなどよくわかり、会話がしやすくなった。
名刺に「高齢社会エキスパート」と書いていることも、高齢のお客様には印象がよい

高齢化の課題解決に向けた制度や政策をはじめ、世の中全体の動きを理解することができて、ビジネスアイデアが膨らんだ

会社の人事が奨励する資格なので、人事考課上プラスになる

私たちは
高齢社会
エキスパート



プライベートの面で

老後について、漠然とした不安しかなかったが、健康のこと、お金のこと、家のこと、また社会との関係など、高齢期の生活イメージがクリアとなって希望が持てるようになった

親の介護をしているが、ケアのこと、認知症のこと、介護施設のことなど、改めてよく理解できた。もっと早く学んでおけばよかったと思った

人生90-100年におよぶ人生の長さを改めて認識した。健康で長生きする秘訣もわかった。家に閉じこもりがちな父に、もっと外に出て活躍するように言います

合格者が集まる交流会に参加して、幅広い業種の方、年代の方と知り合うことができ人脈が広がった。合格者の皆さんの活躍の話を直接聞いて刺激になった

高齢者の話が中心ですが、これは若い人ができるだけ早く学んだほうがいい内容だと思った

認定証

高齢社会エキスパート **総合**

検定 太郎 殿

あなたは、一般社団法人 高齢社会検定協会が主催する
「高齢社会検定（総合）」において優秀な成績を取られ見事に合格されました。
ここに「高齢社会エキスパート（総合）」として、「高齢社会」及び「ジェロントロジー」の
高い知識と教養を保有されていることを認定いたします。

平成 25 年 10 月 10 日
認定番号 130000001号



一般社団法人 高齢社会検定協会

証

パート **社会**

郎 殿

社会検定協会が主催する
「高齢社会」及び「ジェロントロジー」の
高い知識と教養を保有されていることを認定いたします。

平成 25 年 10 月 10 日
認定番号 130000001号



一般社団法人 高齢社会検定協会

証

パート **個人**

太郎 殿

高齢社会検定協会が主催する
「高齢社会」及び「ジェロントロジー」の
高い知識と教養を保有されていることを認定いたします。

平成 25 年 10 月 10 日
認定番号 130000001号



一般社団法人 高齢社会検定協会

【合格者には認定証を発行】
 高齢社会エキスパートであることは、ジェロントロジーの基礎知識を有している、つまり高齢社会・高齢者及び長寿時代の人生設計に関する総合的な理解ができていることを証明する

高齢社会

○現代社会に不可欠な **3 大スキル**⇒

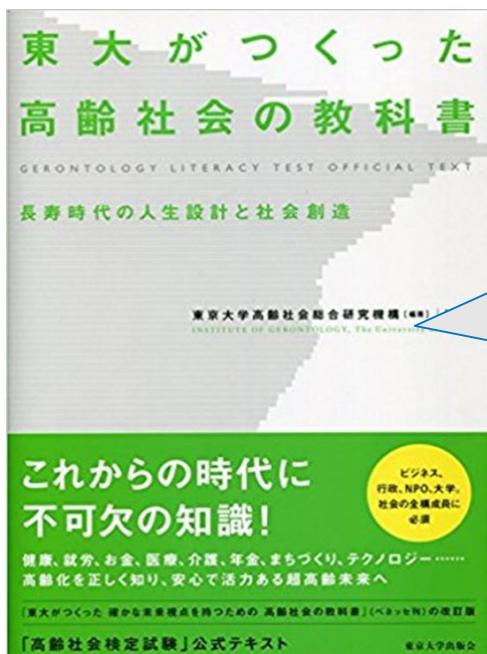
英語

ICT

○個人の人生設計課題、社会の高齢化課題の解決策を導く！

○未来を考える上での必須基礎知識 **“絶対役に立つ！”**

○2017年10月28日（土）東京（東京大学）・大阪・札幌にて実施
（各地でも団体受験も実施可）



＜公式テキスト＞
東京大学高齢社会
総合研究機構が作成

日本初
世界初

～安心で活力ある超高齢・長寿社会へ～

**Gerontology Literacy Test
第5回高齢社会検定試験**

2017年10月28日(土)
於: 東京大学駒場キャンパス
及び 札幌・京都会場

高齢社会検定
高齢社会検定は、一般社団法人 高齢社会共創センターが実施する試験です。企業や
行政・自治体における高齢化対策の推進や福祉関係の業務の効率化、また学生から老年生活
を学ぶため、全ての職種が受験対象です。

個人の人生設計課題、社会の高齢化課題を解決し、
より豊かな未来を築くために必要な知識を提供！

高齢者の役割？ 自身の将来？ 日本の未来？ 社会保険の行方？
高齢者のお金？ 高齢社会は知らないことだらけ 自分たちの未来に役立つか？
住宅と移動？ 老後・福祉？ 高齢者ニーズ？ 福祉技術・便利装置？

テキスト: 「東大がつくった高齢社会の教科書」が監修！
検定試験: 「東京大学高齢社会総合研究機構」が監修！
合格者: 「高齢社会エキスパート」の称号付与！

（受験コース） （受験科目）※詳細は要領参照
個人 → 総論 + 個人論
社会 → 総論 + 社会論
総合 → 総論 + 個人論 + 社会論

★受験料: (個人)2500円 (社会)3500円 (総合)4000円

一般社団法人 高齢社会共創センター



高齢社会共創センター

★会員の募集 (2017/5～) ★



高齢社会共創センターは、東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）とともに、高齢化課題解決、安心して豊かな長寿社会（未来）の実現に向けた活動を展開します。

具体的には、

- ①「**3つのネットワーク化**」をはかり、「人・情報・組織」をつなぎます。
高齢化課題解決をリードする専門機関（有識者・リーダー）、全国のリビングラボ推進者、また会員同志のネットワーク化をはかります
⇒企業にとっては、高齢化課題解決に資する事業展開等にあたって、
有益なネットワーク（人・情報）の確保に！
- ②「**リビングラボ**」事業を通じて、生活課題の解決、高齢者ニーズへの対応、
地域課題解決を推進します
⇒企業にとっては、新たなイノベーション活動、CSVに資する活動に！
- ③「**検定**」事業を通じて、現代社会に不可欠な高齢者・高齢社会の理解
を広く国民に促します。また「研修」事業を通じて、地域の課題解決をリー
ドできる人材養成をはかります
⇒企業にとっては、高齢化対応の専門人材の育成に！

- ✓ 高齢社会共創センターは、高齢化課題解決、安心して豊かな長寿社会（未来）の実現に向けた活動をともに推進する同志として、法人会員、自治体等会員他を募集します。

法人会員Ⅰ【名誉会員】（日本生命・セコム・大和ハウス）正会員

募集 法人会員Ⅱ【特別会員】【年会費100万円】正会員

募集 法人会員Ⅲ【賛助会員】〔 A: 高齢社会共創センターのみ加入【30万円】
B: ジェロネット併用割引適用の場合【15万円】〕

募集 自治体等会員

エキスパート会員

高齢社会共創センター会員特典

<Living Lab関係>

①「鎌倉リビングラボ」の利用権利【法人】

②「リビングラボ研究会」への参加権利【法人・自治体】

<イベント（交流促進）・情報提供等>

③「共創Cネットワーク会議」への招待【法人・自治体】

④HPを通じた情報提供（会報誌の制作も企画中）

<割引特典>

⑤「高齢社会検定」受験料割引【法人・自治体】

⑥「高齢化課題解決研修」受講料割引【法人・自治体】

<その他（会員PR協力）>

⑦共創C制作媒体に会員名を記載（HPや作成ツール等）

【法人・自治体】

※会員特典については、今後も順次拡大していくことを予定しております

①「鎌倉リビングラボ」

共創センターが運営する鎌倉リビングラボを利用することができる（会員でなければ利用できない）

※ただし、利用にあたっては別途経費が必要

②「リビングラボ研究会」（2カ月に1回開催予定）

i）研究会の開催（年6回）：全国で展開する

リビングラボ関係者等を招聘して学ぶことができる

ii）交流会の開催（年3回）：研究会メンバー

同士での交流を深めることができる

iii）日本版リビングラボ・ネットワーク会議（仮称）

の開催（年1回）：全国のリビングラボ関係者

を一堂に介した会議

③「共創Cネットワーク会議」への招待（年1回）

共創センター関係者をはじめ高齢社会に精通した全国の研究者や活動実践者を招聘する。当該関係者をはじめ会員同士の交流を深めることができる。

3. 会員特典の概要（会員種別別）

高齢社会 共創センター				会員特典											
会員種別		年会費		総会	リビングラボ（LL）関係		イベント・情報提供等		割引特典		その他				
					①	②	③	④	⑤	⑥			⑦		
			ジェロネット	議決権	鎌倉LL		LL研究会	各種	情報提供	検定	研修	個別相談	共創C媒体	ロゴ使用	
			会員の 場合		利用権利	利用権利	参加権利	交流会	（会報誌）	受験料	受講料	事業協力	社名等表示	権利	
					（優先）			参加権利							
法人会員	I 【正会員】 名誉会員 （日本生命・セコム・大和ハウス）	-	-	○	○		○	○	○	○（2割引）	○（2割引）	○	○	○	
	II 【正会員】 特別会員	100万円	-	○	○		○	○	○	○（2割引）	○（2割引）	○	○	○	
	III 賛助会員	30万円	15万円			○	○	○	○	○（1割引）	○（1割引）		○		
自治体等会員		-	-				○	○	○	○	○		○		
エキスパート会員（高齢社会エキスパート※登録者）		-	-						○						
有識者会員 ※共創センターが指名する有識者他		-	-				○	○	○						

※「特別会員」については、共創センターの総会議決権を有し、共創センターの事業をともに育んでいただける企業を想定。
 高齢化課題解決・未来社会創造を牽引する企業として、共創センターとしても可能な限りの協力を行っていく。

4. 高齢社会共創センターの展開イメージ（将来構想）

2016

2017

2018

2019

2020

■ 設立準備

コミュニティの
高齢化課題
解決に向けた
共創拠点

高齢社会共創センター（2017/4設立）

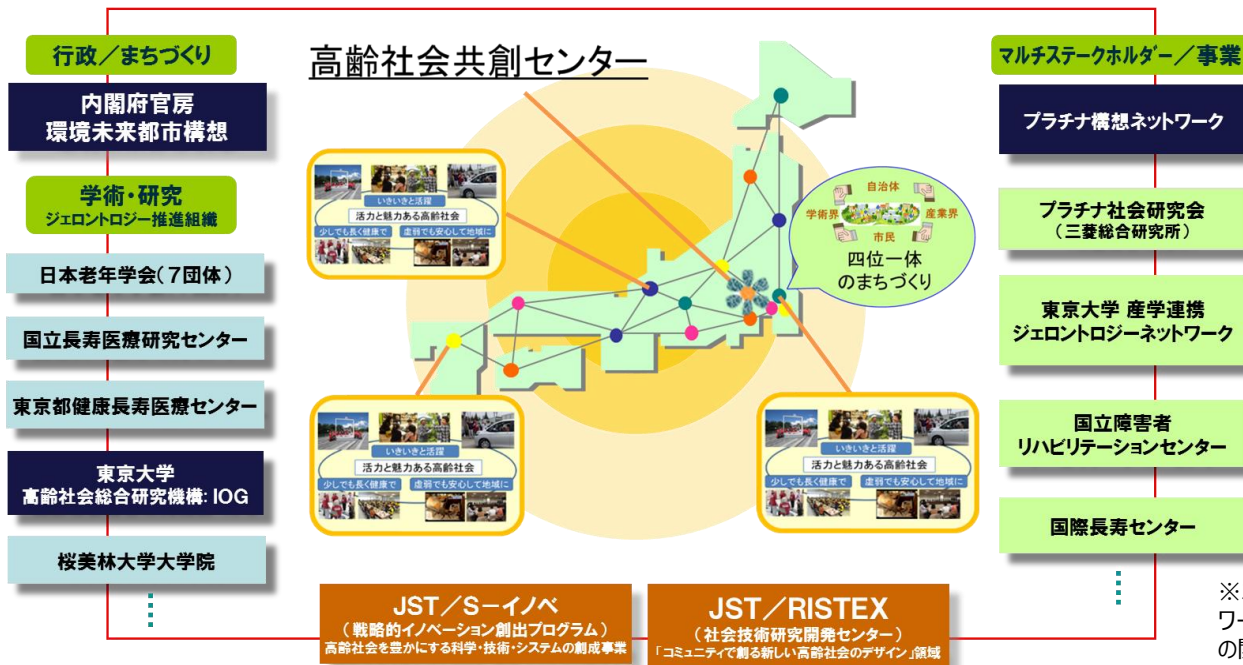
■ JST事業として展開（2016-18）

「研究開発成果実装支援プログラム（成果統合型）」

■ 独立した事業展開（2019-）

分野・セクターの壁を越えて
高齢社会課題を総合的に解決できるコミュニティづくりに資する
「人、組織、地域、情報、価値」を共創し、つなぐ拠点

将来的な
ネットワーク化
イメージ



※左記記載の団体はあくまで例示（ネットワーク化の候補）。現時点では特に何らかの関係性を有しているものではない。

高齢社会共創センターは、東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）とともに、以下の存在（社会的価値）になることを目指します。

- ①超高齢未来に向けて、産官学民が真に共創できるセンター
- ②創生期にある日本のリビングラボをリードする中核的センター
- ③共創活動を通じて、地域・企業の発展、国民のQOL向上に貢献する社会的価値の高いセンター



高齢社会共創センターとともに、未来社会の創造に向けて
未永く共創いただけることを希望します！

<お問合せ先>

〒 113-8656 東京都文京区弥生 2 – 11 – 16 東京大学工学部 9 号館

総合研究機構内 一般社団法人 高齢社会共創センター

TEL : 03-3868-3051 Email : info@cc-aa.or.jp（担当：吉田）

※事業に関するご相談等は、前田（maeda@iog.u-tokyo.ac.jp）まで